

シノリガモ

Histrionicus histrionicus (Linnaeus)

カモ目カモ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

個体数が少なく、落ち着いて生息できる環境が狭められている。

形態

全長38～51cm。雄の模様が美しいカモで、冬羽は頭から上胸と背が青灰色で、眼より前面が白色、耳部に大きい白円斑、その後方にも白い縦長斑がある。胸側と肩羽にも白い帯斑がある。後頭部が赤栗色で、脇は栗褐色、翼は暗褐色で白色の斑や線がある。尾は黒く、側方に小さな白斑がある。雌は眼の下と耳部の大きな白斑があって、全体が褐色。雄のエクリプス羽は雌に似るが、上面がより暗褐色である。

国内分布

冬鳥として渡来し、主に北日本で越冬する。少数が本州北部で繁殖する。

県内分布

能登外浦の海岸に多く、羽咋市柴垣や滝港などに数十羽が越冬する。砂浜が多い加賀海岸ではテトラポットがある場所で観察されることもあるが、個体数は少ない。

生態

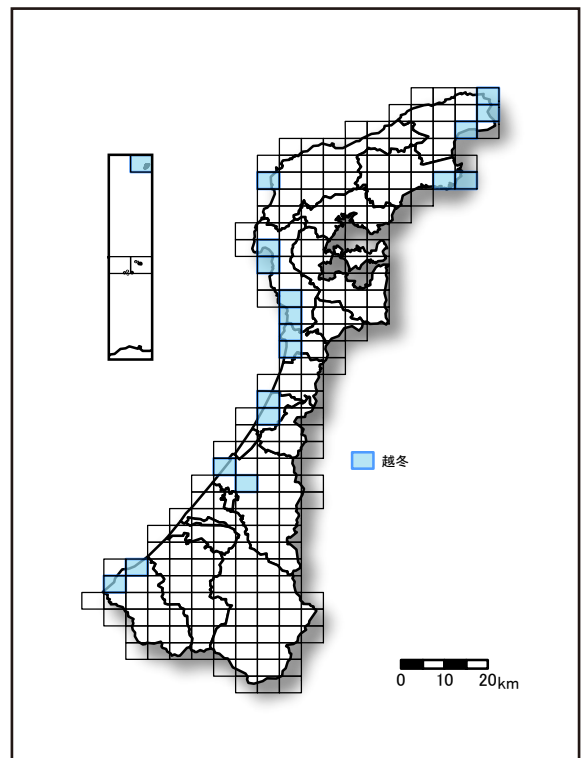
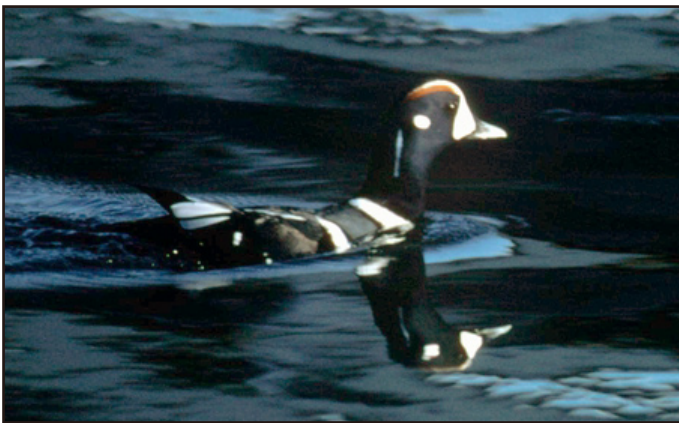
冬期は波の荒い岩礁海岸で、小群で見られる。翼を半開きにして跳ねるようにして水中に潜り採食する。繁殖期には内陸の森林内の溪流に移動し、溪流沿いの草むらや岩陰などに営巣する。動物食で、繁殖期には主にトビケラやその幼虫、冬期には貝類や甲殻類などを食べる。

生息地の条件

人が近づかない波の荒い岩礁で、貝類や甲殻類が多く生息する場所。

生存の危機

越冬地での人間活動。岩礁地帯は岩ノリ採り、砂浜はサーファー等の影響で、落ち着いて採食できる環境が減少している。(A)



県内の分布